

めだかの学校だよ

平成 15 年 2 月 1 日
第 39 号
学舎：東久留女木新田観音山
くみどりの里キャンプ場内
事務局：引佐郡引佐町
東久留女木 472-111
TEL053-545-0381

校長訓話

第三十九回校長 松本 泰榮

私は洪川の伊藤八右さんと野末かつ子さんの紹介で入校して早や八年位になります。お二人に学校のお話しを聞き、そつとのおいでみて「あらん、と云われのぞいてみる気になりました。今ものぞいていきます。

昨年の十二月の時でしたが、榊原さんが「まつもとちゃんの名前、何と読むんだっけ」ときかれ「何年もいるのに変な事を言うな」と思いましたけど別に気にもとめませんでした。しかし次回の三役を決める時「次回校長は松本よしたかさん。ははくん、なるほど」。実は私は生まれてから60年、未だに本名でよばれた事はありません。本当に：です。ほとんどの方は『たいえい』『やすえ』と読みました。名前についてはあんまり良い思いはありませんでした。今では時々ひらが

なで書いたり、フリカナをつけます。よくお酒をのむと一人で舟唄という歌を小声でうたいます。

お酒ぬめるめのかんがいいー 名前は分りやすいがいいー

女は無口で美人がいいー 頭はぼんやり光りやいー

まあ、名前の事はこの位で。

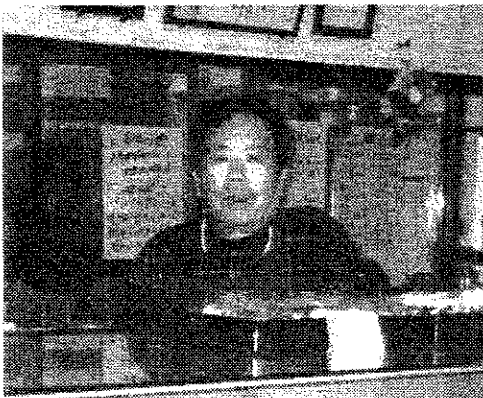
めだかの学校に入校しているいろいろな方にお逢いして大変楽しくおもしろくすごしておよいでいます。特に今までに印象に残った事をお話しします。

何年ほどか前に南信濃村の玉置さんとテーブルが一緒になりお菓子の話になりました。「美は村おこして和田城の所で「ひめまんじゅう」(そばまんじゅう)を始めました。しかし商品があんまりうまく出来ないの売れない、苦になります。一度教えて下さい、と言うことで、南信濃村に出掛ける事になりました。商品を見て、なるほど無理はない。プロで

はなかつたんだから。それから作る人達といろいろ話し合い、何度か講習会を行い、「包あんの仕方」「配合の仕方」「道具の使い方」など、玉置さんをはじめ作る人達と私と頑張りました。半年、一年、二年と月日は流れ、今では単品で年商一〇〇万〜一五〇万円の売り上げがあるそうです。テレビ局が何回も来た村です。長野県知事もお気に入りだそうです。めでたし、めでたしですね。

それと2001年12月のほうねん座の『お祭りきやらばん』やりましたね。お祭り人間の多いこと、多いこと。結果大成功。

アツハハハハ、ホツホホホホ……。次回は何でしょう？



めだかの学校伝言板

——第39回めだかの学校を開校するので出席しなさい。
校長／松本泰榮 (よしたか)
教頭／高木初美
用務員／村木謙弼
給食係／芥田計治・大谷洋介・藤田吉恭
松本芳廣・萩田博・藤野利昭
耳塚信博・野末かつ子・井上啓子
湯浅明美・内山ゆきゑ
渡辺三ツ子 (チーフ)
〈学舎〉 静岡県引佐郡引佐町東久留女木観音山
日本ボーイスカウト連盟静岡県支部
観音山緑の里キャンプ場
TEL なし

開校日／平成 15 年 3 月 7 日 (金) 6:20PM より
受付／鈴木利定・島田尚子・階堂淑恵
本島慎一郎 (後見人)
〈時間割〉～創る喜びにはイキがある～
・一時間目 (20分)
図工「こねて 焼いて こころいき」
鈴木利行先生
・二時間目 (20分)
技術「書いて 切って 絵がいきる」
森田泰子先生
・三時間目 (20分)
総合「拾って 刻んで 木がいきる」
眞砂典明先生
※ イキは「心意気」に通じる。
・給食の時間 採りたてシイタケの料理三昧で～す。

泳ぎ回るめだかたち

■赤沢宿を訪ねて

そこは、身延山の北側の山懐（やまふところ）の集落である。険しい山の中の溪谷沿いに登った斜面にある。山肌には、すっかり葉を落とした木々が立っている。山頂からだんだん薄くはなるが、集落のすぐ近くまで雪が張り付いている。

日蓮宗総本山の「身延山」と、かつては修験道と伝えられる「七面山」を結ぶ参道の途中にできた「赤沢宿」である。濃いあめ色をした板壁の宿と民家が、中世集落の面影を、今に伝えてくれている。重要伝統的建造物群保存地区に指定されているが、空家のような家が少しあるのが、気になる。

この赤沢宿の女性達は、「手打ち蕎麦」を売り出そうと頑張っている。その蕎麦を試食して欲しいと、依頼があった。「蕎麦」と聞けば、何処にでも飛んで行く「袋井そば食文化研究所」の五人の研究員が、二つ返事で蘆崎街道を北上した。

一月にしては、珍しく風もない暖かい日であった。しかし、さすがに、山間（やまあい）の空気は引き締まっている。大きな木造の江戸屋という宿では、既に蕎麦打ちが始まっていた。赤沢のおかあさん達は、何とつなぎを使わない十割そばを打っている。こま板を使わないで切っている。少し太くて不揃いであるが、赤沢宿の雰囲気に入った、素朴な蕎麦である。

山の恵みを生かした食が、この宿場にもたくさんある。蕎麦も、自家用には「蕎麦きり」や「蕎麦がき」にしていたようである。そして、これから、この研究熱心なおかあさん達によって、この新しい

「赤沢手打ち蕎麦」が、赤沢宿の魅力に加わるのは近い。

試食会が終わって、街道を少し歩いた。宿場のはずれから見た山は、まだ殺風景であった。しかし、今は枯れ木のように見えても、山頂まで木々を生やしている。青く澄みきった空に向かって、壁のように立っている。新緑や紅葉の凄さも、容易に想像させてくれる赤沢宿である。

私達の周りには少しばかり出掛けただけで、何百年も変わっていないような風景が、まだ残っている。純朴で熱心な人が、まだいる。うれしくてありがたい。日本には、まだいい所があり、いい人がある。ただ、私達が知らないだけのことである。（なんでもあり農園小作人の松）

■「しずおか未来づくりネットワーク」交流会「三富士宮」

1月18日（土）地域活性化のDNAをキーワードに開催されました。今、話題の焼そばが食べられると200人を越える参加者が集まりました。10:00、富士宮見えて歩きに出発。浅間神社をはじめ、富士宮の知られざる観光スポットをポランティアのみなさんのご案内で見学、そしてお待ちかねの焼そば試食。

歩き回っておなかがいっぱいということもあり、格別のおいしさでした。午後からは市役所でのフォーラム、各地の事例発表に続き「さぬきうどん」富士宮焼そばのトークバトル。

さぬきうどんブームの火つけ役・田尾和俊氏と富士宮の仕掛け人・渡辺英彦氏にフォーラム二ストの勝谷誠彦氏を加え、軽妙なジョークをまじえての話に会場は爆笑の渦に包まれました。交流会は駅前の空き店舗が会場。地元の方々による手作り料理の数々、

もちろん焼そば、さぬきうどんも大人気！会場を見回せばあちこちにメダカがうようよ。みんなそれぞれに交流、情報交換を楽しんでいました。

えっ、さぬきうどんと富士宮焼そば、どっちが勝ったの？それは皆さんが実際に食べて判定して下さいね（笑）おもしろい「富士宮フォーラム」の報告でした。（遠州横須賀 鈴木武史）

■三遠伊勢地域交流連携シンポジウム開催のお知らせ

静岡県西遠地域より愛知県三河地域を経て三重県伊勢地域に至る「三遠伊勢地域」は、2004年には中部国際空港の開港、日本国際博覧会「愛・地球博」の開催を控え、観光交流の場として注目を集める地域となっております。当地域の連携に向けた方向性を語り合う場として、来る3月にシンポジウムを開催。

日時：平成15年3月19日（水）13時30分開演。
場所：豊橋公会堂大ホール（豊橋市八町通2の22）
参加費無料
定員400名。

パネルディスカッション形式で、パネリストには静岡県は館山寺レイクホテル花乃井の女将牧田徳子さん。愛知県は産美町産業課商工観光係の伊東成子さん。三重県は伊勢志摩再生プロジェクト委員長・外宮にぎわい会議副代表の石川順子さん。みなさんおわかりですか？石川順子さんはあの元気な伊勢のお姫様メダカあいの北川三重原知事もタジタジとか。牧田徳子さんは浜松おかみさん会長、あ

のパワーは凄いですよね。伊東成子さんは瀬美町の菜の花で名を売った人。そう今回は女性パワーで盛り上げようという趣向。気の弱い男性はムリかも。でも出席を！

■三遠南信地域を学ぼう「遠州地方の奇祭、西浦田楽の鑑賞会」

三遠南信情報誌「ami」のAmi交流会（照井泰子メダカ主宰）では2月18日（日）、西浦田楽の日程に合わせ、「三遠南信地域を学ぼう」と鑑賞会を企画したのですが、最少携行人数にならず、中止となりました。『ねむい、さむい、けむい』と三拍子そろった良い企画であつても難しいものです。

西浦田楽は昔ながらそのままに継承した本格的「田楽」。夜の八時、前の山の頂上より月が出てから踊り始め、翌朝の八時同じ山の頂上からお日様が出るまでの12時間踊りつづけるもの。元気のあるメダカ生、西浦には耳塚信博メダカもいるよ。水窪川の上流へ泳いで行こう！いざ！

■長野県天龍村「坂部分校コンサート」

天龍村坂部、関京子メダカの廃校となった「坂部分校」で、4月12日午後より上嶋裕志メダカ主宰の『ゆかいな音楽の仲間』によるコンサート。核満開の下、地域の人たちと一緒に開かれる。新城市の清水良文元メダカも核の故木で作ったリコーダーを持って特別出演。楽しみにしてください。

■「めだかの学校」課外活動「蕎麦打ち体験会」

今度の「めだかの学校」のとき、希望の方がいるようでしたら、午後1時頃から、学校の会場で「蕎麦打ち体験会」をやるうと思えます。

費用は、材料費のみ一回800円です。
3月7日(金)午後1時頃から4時まで
・費用:800円/回(約5人分)
・会場:めだかの学校と同じ

■めだかの学校十年史編纂三百字原稿提出

めだかの学校十周年企画委員会では、十年史編纂に向かって作業を進めています。元メダカ及び現役メダカにも「私とめだか」で原稿提出をお願いしています。まだ原稿提出をしていない生徒がいます。締切日は過ぎていますが、至急提出して下さい。できれば全員掲載したいと思いません。又、めだかの学校に関する写真、めだか生が活躍している写真などありましたら、事務局までお送り下さい。「さすめだかの学校」と言われるような十年史にしたいと思っています。この十年史は次に控える公開講座「三遠南信におけるシンポジウム」に大きな関わりを持つものになります。かなりの生徒は提出していますが、よろしくお願ひいたします。なお十年史編纂実行委員長は加藤修一メダカです。発行は四月頃を予定しています。

◇人・ひと・ヒト・・・だより

○富士川町の柚木恵美子メダカ、町内で活躍する自然体験グループで「自然と生きる」を共通テーマに持つ五団体で、コンソーシアム『富士川っ子』が育つ会』を結成。会長に。
○加茂光廣メダカ。草笛のルーツを訪ねてポルネオに1月25日の大同窓会に出席できなくてごめん。ポルネオから成功祈っている。
○豊岡村の深澤明男メダカ、自家産のミカンや野菜など産直物産店をはじめて3

月までは多忙し。
○浜松市の村木謙式メダカ。袋井市のバラランカ内にあるゴルフ工房あり。今度はフラワーパークの前にガラス工房を開設。館山寺花乃井の営業も。好奇心、挑戦心一杯。
○浜松市の佐藤和夫メダカ。音楽の町浜松市にプロの音楽を！と、浜松フィルハーモニー管弦楽団の事務局長として頑張っている。因みに理事長は栗原前浜松市長。

○藤野利昭、はつえメダカ夫婦。脱サラしていいよ『そば店』開店に向って努力中。利昭メダカは東京のそば道場で修業中。いやいやめだかの学校は「ソバクラブ」をつくってもいいぐらいのそばブーム。松本芳廣、溝口久メダカから神戸、京都などは打ち出張とは。
○藤田潤吉メダカ。チンドンばかりではないよ。浜松文芸協会を主宰して、地域文芸に力を注ぐ。夫人の久枝メダカは赤い糸、縁結びに。エッ、私も文芸会員です。あとで教えて。

○バラメダカ宅に送られてくる『農の風景』(農林業への好き研究会発行)には、川島安一メダカ、溝口メダカの湯布院の師匠中谷健太郎さん、松本芳廣メダカが健筆をふるう。
○佐野文子メダカ。ある2000人ほどの会合で司会。講師の石川コウマンさんを、石川マンコウさんと紹介。会場は大爆笑。本人は何んで笑うの?。石川さんツカツカ寄って来て「石川コウマンです」とは。ちなみに石川さん、県知事石川嘉延さんのお兄さん。平成のサザエさん面目如く。

○今村純子メダカ。伝統の食文化の啓発に本田童子。高木初美らガラ紡愛好会のメダカとがんばる。ガラ紡愛好会メダカ、綿の種子まきから織りまで生活行動から環境浄化活動へ主婦の立場で進める。

○豊橋の森田泰子メダカ。民話の発掘と、切り絵で大型紙芝居化。上嶋裕志メダカの協力を得ながら製作中。
○長野県浪合村の近藤廣平メダカ。山村の総務課長として合併問題に取り組み。住民の立場にたつて「何が最良か」日夜苦悶する。『庸平、頼む』村長の目確か。
○天竜市の本島慎一郎メダカ。三遠信山岳都市研究会の事務局長として「間伐材の活用」「天竜川水系の水の汚水問題」など会員と情報交換しながらがんばっている。

○佐久間町の小野田宗弘メダカ。勤務先の高校の芸術発表会が2月15日からあるのでその準備で多忙し。美術の先生の腕の見せどころ。
○雄踏町の山内ひさ子メダカ。観光の仕事が忙しすぎて病院通い。仕事と病院。しばらく休養しますと。早く元氣になつて顔見せて。

○岩井正広メダカ。自衛隊浜松基地から福岡は芦屋に転勤。お世話になりました。福浜の際には一報しますと。
○東京の篠原準八メダカ。山野草全国サミットを引佐町で八月に開催予定。と。学舎だった「つみくさ」は全国でも珍しい『野草料理専門店』摘み草クッキング主宰の準八メダカからの指導を受けながらバラメダカらのはじめたところ。全国サミットを開催するには最もふさわしい町。
○浜松市の蜂須賀千賀子メダカ。冬の螢フェスタ2002で市民プロデューサーとしてがんばりました。食事券一枚で昼から夜まで楽しそうに働いてくれる若いボランティアの子どもたちに大感謝。2003年もやりませう。

○浜松市の大谷洋介メダカ。豊岡村の花咲乃庄で2月19日まで、渡辺華山と椿山の流れを汲む山下青崖と青成画伯らの企画展をやっている。花咲乃庄の看板娘は千葉司江メダカ。

○浜北市の『春華まつも』主人の松本泰榮メダカ。浜松市のミスモト調理専門学校で月3、4回製菓術を磨くため通講する。技量あってもまだ磨く。めだかの学校デパート最高に。
○秋田県の奈良努メダカ。元氣一杯。八月に秋田県で開催される地域づくり全国交流研修大会の実行委員として準備に入る。この時に会いに行こう!。詳細はまだ先の話。でも予定組んで。よろしく!とは。

もつともつとたくさんの人に伝えたい。でも紙面の都合で今回はこれまで。ごめんね。

※お礼
浜松市の第3回校長渥美登良男メダカから、『三遠南信に「めだかの学校」ありき」とがんばって下さいのメッセージと共に郵便小切手で五万円のご寄附をいただきました。めだかの学校の活動資金として使わせていただいています。渥美登良男元校長は第一回生で、近年は体調を崩され出席はできませんが、いつも励ましてくれてありがとうございます。竹炭の枕をもつてお礼と感謝の気持ちに代えさせて頂きました。ありがとうございます。

◆お詫び
めだか春秋は今回はお休みとさせて頂きました。次回は、生徒でありながらなかなか出席できない清水市の花井孝メダカにお願いする予定です。乞二期待。

☆細江町の久米久乃利メダカ。第十二回優良経営食料品小売店等全国コンクールに応募して農林水産大臣賞は逸したが、(財)食品流通構造改善促進機構会長賞を受賞。全国で十五店舗が選ばれた中の一つ。親御さんから引継ぎ、(有)大村屋酒店の若社長としてがんばる。西部地区の酒店有志でつくる「遠州夢倶楽部」の会長として、新たな商品開発にも積極的に挑戦している。

☆湖西市の寺田悦子メダカ。Uターンして自宅に併設した合気道浜名湖道場を開設。合気道は愛知県に通ず。格闘技ではなく、自己鍛錬・精神修養が目的。一月二十一日付け静岡新聞にカラーで掲載された。掲載地域は狭かったけど格好よかったね。同紙面の横には、石野省三メダカの田沢小での親子バーベキュー会。五平もちや伊藤英雄メダカのネギを焼く。おネギうまいの写真を記事、仲良く。

☆引佐町の伊藤茂男・鈴木計芳メダカ。伊藤八右メダカと鈴木真弓メダカからの協力を得て引佐町でんごし川を五棟の山荘を使って、鈴木真弓メダカのマクラメ可愛らしい羊がいつぱい。伊藤八右メダカの能面。八右メダカの父信次さんの日本画など。一月十二日、十九日まで地元をはじめ多くの人を楽しませる。メダカ生もだいぶ見に来ました。

☆国土交通省中部地方整備局・東海幹線道路調査事務所発行の「中部地方の明日をつなぐ道、地域づくり情報誌」プロジェクト・レポートが「めだかの学校」取材に来る。同窓会や学校開校日に取材が出来れば良かったが取材日程が合わず、事務局バラメダカが対応。情報誌は中部地方の役所や公共施設、各地の地域づくり団体などに配布。さあ、どんな内容になることやら。お楽しみに。

☆三遠南信情報誌AmiNo八号(十二月)発行。多くのメダカが執筆。「めだかの学校」も掲載されている。五百円。問い合わせは照井泰子メダカ又は事務局へ。

◆事務局より

今年の冬は寒かったですね。地球温暖化という言葉が嘘のように聞こえます。地球全体から見ればこれも地球温暖化からくる異常気象かも知れません。もうすぐ暖かくなります。くれぐれもお身体にはご自愛を！

平成14年12月(4)日の第38回めだかの学校は、名和理代子校長のもと、10周年を迎えてあらためて「めだかの学校はどうあるべきか」を授業として討論しあいました。「建学の精神」に則り、1人が「めだか生」として自覚を持つべきだ」と、給食の時間にも延々と話し合っていました。また学舎としての「つみくさ」は最後の日、継続生にとっては馴染み親んだ学舎と別れるのは淋しいもの、それだけに「めだかの学校」に対する思いがあったのかも知れません。学舎「つみくさ」ありがとう。39回の校長は松本泰榮、教頭高木初美、用務員村木謙也。お別れの盃ならぬお汁粉で再会を約束しました。最後は大きな輪をつくり、今日の日はさようならを歌い、ひとりひとりが握手しながら38回のめだかの学校を閉校いたしました。

さて39回の授業は、「創る喜びにはイキ(意気)がある」をテーマに、一時間目園工「こねて焼いてこころいき」鈴木利行先生の陶芸の心。二時間目は技術「書いて切つてえがいきる」森田泰子先生の民話を切り絵で大型紙芝居をつくる、その心意気を！。三時間目は総合で「拾って刻んでできがいきる」真砂典明先生の林業に生きる姿、製材後の木切端を使ってのエトづくり。今年はず。そんな三人の心意気を知ることになりました。特に39回からの新学舎は、引佐町東久留女木観音山、みどりの里キャンプ場です。自然からいただく恵みを授業課題としています。

■新学舎「みどりの里キャンプ場」現在日本ボイスアウト連盟静岡県支部が地元自治会から借り受け、管理運営している所です。そこを借りさせていただきます。

ただくことになりす。普通あまり使われておりませんので、先ずは有志で新学舎の掃除と厨房器具の取り揃えなど使用し易いようにします。2月16日午前10時から作業に入ります。「手伝うぞ」という生徒は、草払機、チェーンソー、鎌、鋏、カナヅチ、クギ、そうきんなど、作業できるイデタチで特別課外授業にご出席ください。2月16日(日)午前10時 特別課外授業 手弁当で。お土産に40cmの菌打ちした椎茸の原木付きです。場合によれば採りたて椎茸のバーベキューができるかも。現地集合。遅刻は認めません。

■いやア、面白かった10周年企画第一弾「大同窓会」

1月25(土)・26(日)の2日間にわたって引佐町奥山の方広寺で賑やかに行われました。元メダカから現役メダカまで85名が出席。うち宿泊者は29名でした。同窓会については3回の企画委員会を開き熟慮検討したため計画どうり(?)の「めだからしい」大同窓会になりました。

石野省三実行委員長のもと、先ずは受付から。「私、申し込んだのに私の名前がない」「エッ、そんな、やっぱりない。ごめん」からはじまり、パネルディスカッション。3人の言い出しっぺパネラー。初代校長平山豊、教頭伊藤茂男、先生榎原幸雄、誰もが認めるいい加減な3人。45分の時間もなんのその、平山初代校長、ひとりペラペラ速射砲のよう。「おい、めだかの同窓会だよ、めだかの始めの頃のこと話せよ。やつと一巡したかと思えば、またまた平山節。パネル討論どころか3人による漫談。マイツタネと前を見れば皆しい顔して。総合司会の水村春江、鈴木武史メダカもこれまた鐘を鳴ら気もない様子。まあ、イッパ。この後のめだかの10年。校長は73歳、教頭は79歳。かく云う私は72歳。松田不秋メダカは83歳。会場から「10引いたら」の声。「いいね!!」。指名された松田不秋メダカ。「...ひとつサバ読んで。実は74で

す」とは。まあ、どなたもあちらの世界へ行くのだからその時は。あちらで「めだかの学校」作ればいいから。17時から地下食堂で「精進料理」の交流会。斎藤昭給食係の綿密な席順で、お坊さんのお話を聞いて食事。何事も感謝ですぞ!!。あとは夜ナベ談議と移っていき。しゃべってしゃべって時は21時半、22時消灯でもあり、今夜もまた「今日の日はさようなら」を歌い、握手をかわしながら夜の幕りへ。宿泊生徒は5時半起床、座禅、朝食、清掃。最後は「榎原幸雄の代理です」と水村春江メダカ。拍手と笑いで「大同窓会」は幕を閉じた。くろうさままでした。この続きは特集ページで。

■お詫びとお礼 39号も大幅に遅れてしまいました。今回も溝口久、本島修一、伊藤英雄、石野省三、加藤修一、照井泰子メダカさん、エヌビーネットの伊藤さん、ありがとうございました。感謝。

■10期は平成14年9月1日から2名の推せん状を添えて事務局まで。申込書を送付します。又、手続きをされていない継続性は名簿からはずれ自動退学となっております。(事務局 榎原幸雄メダカ) ◆各地のたよりの掲載について 情報ください。待つてまーす。 次回の発行は5月1日です。 郵便かFAXで事務局へ (FAX053・545・0381)。 又はEメール Teruji@net.co.jp 照井泰子宛で!



めだかの学校事務局

〒431-2531

静岡県引佐郡引佐町東久留女木472-1111 「リнденバウム」内 榎原幸雄 ※学舎「みどりの里」は何もありません。連絡・お問い合わせは事務局まで。